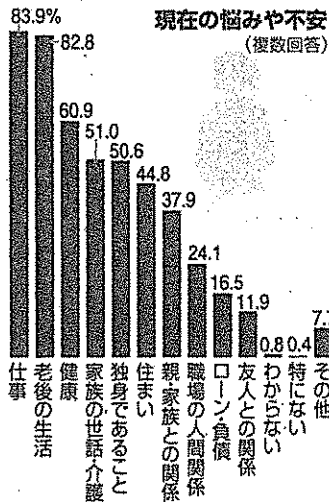


非正規・独身 女性の困窮

2/24
朝日

子いない35~54歳 孤立感



出勤前、デイサービスに向かう母を見送る女性＝大阪市

病氣・老後に不安
昨年10月にインターネット一般財団法人「大阪市男女共同参画」の調査でわかった。「病気になるたら生活が破綻する」「1人で老後まで生活できるか不安」。さまざまな支援策からも漏れ、寄せられた声は切実だ。

昨年の年収は「150万円以上250万円未満」が4割。「150万円未満」の割合は3割で、年齢が上がるとその割合が高かった。法人「大阪市男女共同参画」の調査でわかった。調査でわかった。調査でわかった。

病氣・老後に不安

非正規で働く、子どもいない35~54歳の独身女性が、困窮し孤立している実態が、公益財団法人「大阪市男女共同参画推進協会」などの調査でわかった。「病気になるたら生活が破綻する」「1人で老後まで生活できるか不安」。さまざまな支援策からも漏れ、寄せられた声は切実だ。

「すぐ席がなくなる」
外資系証券会社で契約社員をしていた川崎市の女性(42)は昨年12月、職を失った。「契約満了」と言われただけ。勤めたのは5カ月間、失業手当を受給できず、資格はなかった。

「不安定な状態から抜け出したい」と、昨年4月から通信制の大学で経営学を学んでいる。学費や交通費を捻出するのはつらいが、「弱者をサポートするような起業家になりたい」と話す。

アンケートの自由記述から

- 退職金もなくボーナスもない。将来生きていくのであれば生活保護しかない。安楽死施設を聞いてほしい (35歳)
- 結婚したら非正規女子は辞めるのが当たり前と思われている。「子ども産むなら辞めない」と上司 (37歳)
- 10年働いてやっと2年前に契約社員になれたが、有給休暇、残業代、健康診断などが無い (44歳)
- 産休やうつで休んでいる人をフォローしている。でも、親や自分の具合が悪くても休みを取れない。結局は退職するしかない (44歳)
- 時給が上がるのは地域の最低賃金が上がったときだけ (48歳)
- 両親の介護中で私自身もがんサバイバー。両親の年金、兄弟の援助で生活している (49歳)

ただ、勤めたのは5カ月間、失業手当を受給できず、資格はなかった。音楽の専門学校を卒業した。勤めたのは5カ月間、失業手当を受給できず、資格はなかった。

「不安定な状態から抜け出したい」と、昨年4月から通信制の大学で経営学を学んでいる。学費や交通費を捻出するのはつらいが、「弱者をサポートするような起業家になりたい」と話す。

「働いているがしんどい」という非正規の独身女性から問い合わせがくるようになり、調査を始めた。

今年1月、外資系銀行の派遣社員に採用された。正社員が産休から復帰するまで1年半弱。早く切られる可能性もある。一役目が終わればすぐ席はなくなる。

不安定な状態から抜け出したいと、昨年4月から通信制の大学で経営学を学んでいる。学費や交通費を捻出するのはつらいが、「弱者をサポートするような起業家になりたい」と話す。

平均で、働く女性のうち56%が非正規。そのうち約半数が35~54歳だった。これまでの傾向では、うち7割超は既婚で、協会では「未婚者は見えない存在だった」と分析する。調査に応じた女性からは「既婚者や子育て世帯には色々な支援や控除があるが、独身者にはなく厳しい」「公営住宅の優先入居や家賃補助を単身者にも広げてほしい」といった要望が多く寄せられた。

「不安定な状態から抜け出したい」と、昨年4月から通信制の大学で経営学を学んでいる。学費や交通費を捻出するのはつらいが、「弱者をサポートするような起業家になりたい」と話す。

「不安定な状態から抜け出したい」と、昨年4月から通信制の大学で経営学を学んでいる。学費や交通費を捻出するのはつらいが、「弱者をサポートするような起業家になりたい」と話す。

看過されてきた未婚

今回調査を主導した横浜市男女共同参画推進協会は、これまで、産休・育休明けの再就職、シングルマザーの就労、無職で若い女性の自立など、働いていない人を働けるよう支援する活動を主に続けてきた。だがここ数年、そうした講座に「働いているがしんどい」という非正規の独身女性から問い合わせがくるようになり、調査を始めた。

(花屋直子)